

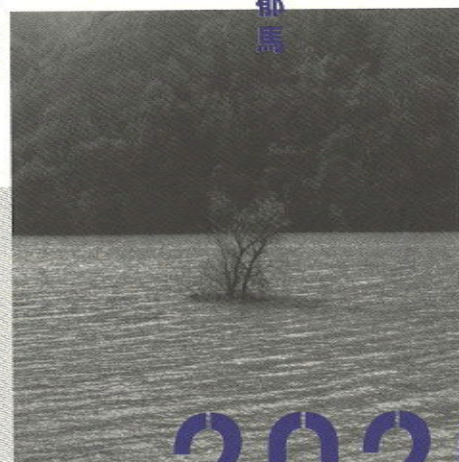
ふ

津田翔一

蛭田香菜子

星野郁馬

細萱航平



2025
8.2^{sat} ~
10.5^{sun}

信州高遠美術館

開館時間 = 9:00 ~ 17:00 (最終受付は 16:30 まで)
休館日 = 火曜日 ※9/23 (祝) は開館、翌 24 日休館
入館料 = 一般 500 円 (400 円) ※ () 内は割引料金
高校生以下および 18 歳未満の方は入館料無料

主催 = 伊那市、伊那市教育委員会、信州高遠美術館
企画 = 若手アーティスト展 ふうけいのまにまに実行委員会
後援 = 長野県、信濃毎日新聞社、中日新聞社、読売新聞長野支局、朝日新聞長野支局、毎日新聞長野支局、時事通信社長野支局、共同通信社長野支局、市民新聞グループ、アド・コマーシャル、アド・プランニング、(公財) 信毎文化事業財団、(公財) 八十二文化財団、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、abn 長野朝日放送、FM 長野、長野日報社、伊那ケーブルテレビジョン、伊那市有線放送農業協同組合、伊那美術協会、信州美術会伊那支部、伊那市民美術会、伊那市観光協会

「ふうけいのまにまに」は、風景に従う、あるいは風景のあるがまま、というような意味である。「まにまに(随に)」は、他の人の意志や事態の成り行きに任せて行動するさまを表す。万葉集などにもつかわれて、古来の表現だ。成り行きに任せるという主体性に欠けた表現のように聞こえるかもしれない。しかし私たちは目に見えない、あるいは超越的な、漠然と大きな何かを感じ取り、素直に従い、かたちを起こすというような感覚をこの言葉に共有した。風景という言葉の持つ曖昧で多義的な意味に対して、私たちそれぞれの考えは必ずしも一致しない。しかし、私たち4人が「ふうけい」と呼ぶものに対して取る手段は手を動かすことと共通していた。経験される風景の実践であれ、内的風景への沈思であれ、

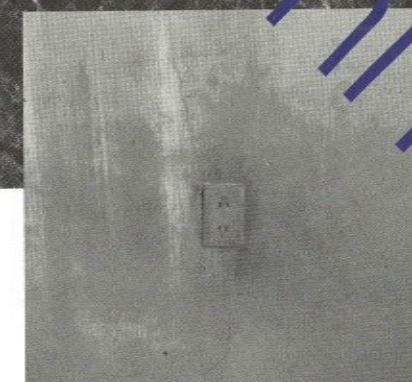
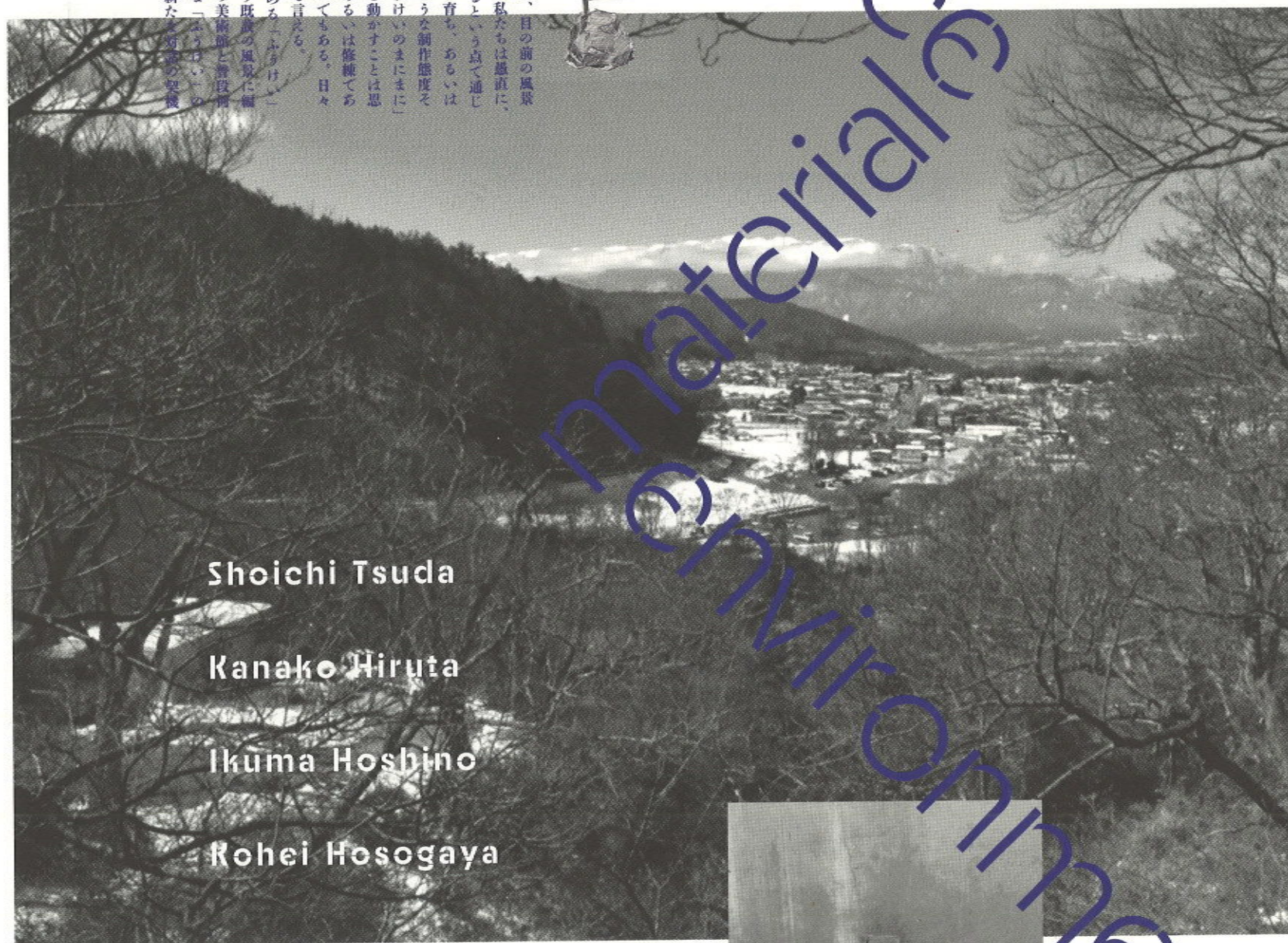
日常の風景の再解釈であれ、目の前の風景への介入行為であれ、ただ私たちは愚直に、「まにまに」制作して考えようという点で通じていたのだ。信州で生まれ育ち、あるいは生活を営む私たちのこのような制作態度そのものが、この地の「ふうけいのまにまに」培われたものだろう。手を動かすことは思索であり、試行であり、あるいは修練であり、問いを立てる振る舞いでもある。日々を生きて私たちがの痕跡とも言える。私たちはそれぞれの見つける「ふうけい」を、信州高遠美術館という既成の風景に組み込む。本展覧会が、この美術館と地域間気なく見つめるさまざまな「ふうけい」の可能性となるとともに、新たな対話の契機になることを願う。

Shoichi Tsuda

Kanao Hiruta

Ikuma Hoshino

Rohei Hosogaya



い

の

ま

12

若手アーティスト展

ま

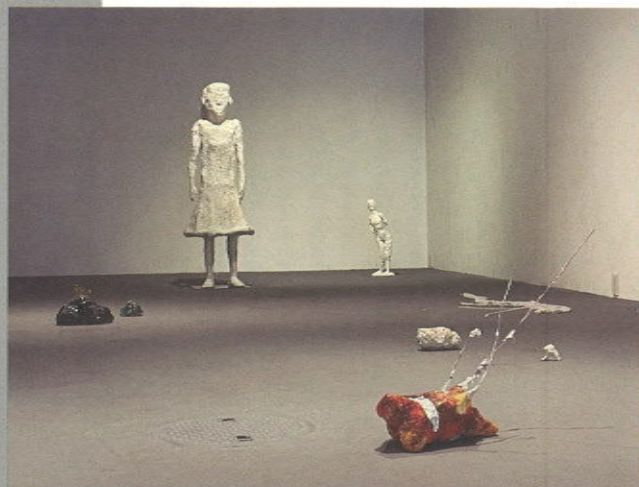
12



《山崩》2024 キャンバスに油彩 5000mm×6000mm

津田翔一 | Shoichi Tsuda

1984年長野県生まれ。長野県在住。美術家。油彩での表現を中心に、他分野の手法も取り入れたインスタレーションで発表。身近な〈物語〉から制作を行う。主な展覧会に、「油彩画展 ～明るい洞窟～」(長野県立美術館、長野県、2021)、2023年度文化庁メディア芸術クリエイター育成支援事業企画採択などがある。



展覧「産毛のある彫刻たち」展示風景(いりや画廊、東京、2024)

蛭田香菜子 | Kanako Hiruta

1993年福島県生まれ。長野県在住。筑波大学大学院博士前期課程芸術専攻彫塑領域修了。日常の風景や素材を彫刻的観点から観察し、作品の制作発表を行う。主な展覧会に「産毛のある彫刻たち」(いりや画廊、東京、2024)、グループ展に「Resonance I - 響鳴 -」(GALLERY ART POINT、東京、2024)などがある。



《木演》2023-2025 流木

星野郁馬 | Ikuma Hoshino

1990年新潟県生まれ。長野県在住。大学院で美術教育及び陶芸を学ぶ傍ら制作を始める。大学院修了後、長野県内の中学校で美術教諭として5年間勤務したのち、現在、伊那市高遠町にて「純喫茶 窓」を営む。主な展覧会に「不在」(円室、伊那市、2022)、「木偶」(禾々、富士見町、2024)、グループ展に「春物太昌昌」(空間站、中国北京、2025)などがある。



《石籠敷る》2025 高遠石、スライドガラス サイズ可変

細萱航平 | Kohei Hosogaya

1992年長野県生まれ。仙台市在住。彫刻家。地質学による地球史推測の方法を参考にしながら、人間の感覚をはるかに超えた時空間スケールで起こる出来事を経験することについて考える。主な展覧会に、「内側から触れる風景」(gallery G、広島、2024)、キュレーションに「川内地域の地質の表象」(青葉の風テラス、仙台、2023)がある。

信州高遠美術館では、2015年から現在まで、地元を中心として活動する若手作家の応援事業として「若手アーティスト展」を開催し、第1回～第7回展まで54組の若手作家を紹介してきました。第8回展となる今展は、長野県にゆかりのある4名の若手作家が出品します。4名の作家は、信州の豊かな風土で育ち、あるいは生活を営む中で、独自に制作姿勢を深めてきました。本展では、4名の作家それぞれが表現しようとする形象を探ります。また同時に、曲線的な壁面などの特徴的な構造を持った空間を最大限に活用した展示を通じて、信州高遠美術館の可能性を模索します。

■開館記念イベント

会期中10月4日(土)、5日(日)は開館記念日より、入館料無料&美術館内や屋外の敷地で、作家によるワークショップ、クラフト市、飲食店の出店などを予定しています。

ワークショップ「モノをしつらえる/場所をみつめる」

日用品やガラクタなど、身の回りのモノに対する私たちの見方や感じ方が変わる瞬間を体験することを目指すワークショップです。様々なモノの組み合わせを試したり、美術館敷地内の様々な場所にモノを設えてみたりします。

日時=10月4日(土) 13:00~16:00

5日(日) 13:00~16:00 ※両日とも同内容

対象=小学校5年生以上 定員=各回10名

講師=細萱航平(出展作家) 参加費=無料

※応募や詳細については、美術館に直接ご連絡ください。

■本展来場者の方には、美術館内の喫茶「パレット」で、好きなドリンクを1杯無料サービスいたします。

信州高遠美術館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠400

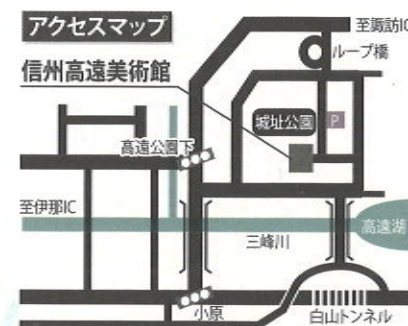
TEL: 0265-94-3666

FAX: 0265-94-3936

MAIL: t-bjk@inacity.jp



美術館



アクセス

交通のご案内



●中央自動車道=伊那I.C.から国道361号を経由30分。諏訪I.C.から国道152号を経由50分。小黒川スマートI.C.から約25分。
●JR飯田線=伊那市駅下車 伊那バスターミナル・伊那北駅から高遠線 JRバス25分で高遠駅。高遠駅から徒歩25分。

■このチラシを1枚お持ちいただくと、入館料が100円割引になります。(1グループ様まで有効)